

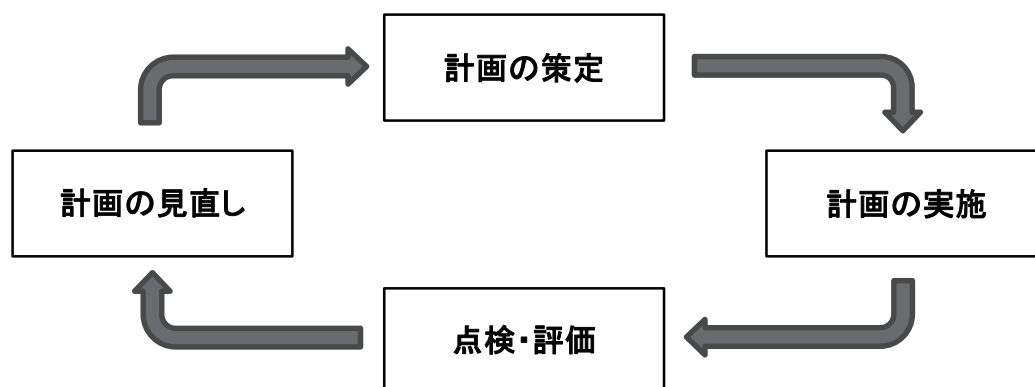
第6章 計画の推進体制

1 計画の進行管理

- 計画の推進にあたっては、様々な担い手の連携がきわめて重要であることから、秋田市（福祉保健部および秋田市地域福祉計画等推進庁内連絡会）が各主体との連携、調整を図ります。
- 計画の進行管理は、計画の策定過程との継続性を確保するため、秋田市社会福祉審議会地域福祉専門分科会が行うものとします。

2 計画の評価と見直し

- 毎年度終了時点で第4章に掲載した《市の取組》の進行状況を点検・評価し、その結果を市ホームページなどで公表し、取組の見直しを適宜行います。なお、達成度の判断が容易に行えるよう、主な取組には指標を設定しています。
- 次期計画策定の際には、第4章に掲載した《市の取組》の達成度の判断を行うとともに、市民意識調査により各施策の目標指標の達成度の判断を行うなどして総合的な評価を行い、次期計画に反映します。
- 計画の評価は、計画の進行管理との継続性および一体性を確保するため、秋田市社会福祉審議会地域福祉専門分科会が行うものとします。



3 《施策ごとの目標値》の設定根拠

頁	施策	指標	2017 (H29) 実績	2023 第4次計画 の目標値
61	施策1 福祉に対する理解や支え合いの意識の向上	地域福祉の趣旨を肯定的に理解している人	54.8%	60.0%
66	施策2 担い手の育成・支援	福祉に関する仕事やボランティア活動をしている人	9.7%	11.0%
		高齢者(65歳以上)で福祉に関する仕事やボランティア活動をしている人	7.3%	11.0%
73	施策3 地域活動の推進	地域活動(地域自治活動や市民活動)に参加している人 ※活動の分野を選択する質問となっているが、複数回答可能のため、便宜上、100%から「参加していない人」「無回答」の計を差し引いた割合とする	50.4%	54.0%
78	施策4 担い手の連携による取組の推進	住民団体や関係機関(町内会、地区社会福祉協議会など)が連携して活動することが多くなったと「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計	20.7%	22.0%
87	施策5 利用者の立場に立った福祉サービスの提供	福祉保健サービスが充実し、適正に供給されていると「感じる」「どちらかといえば感じる」の割合の合計	27.5%	29.0%
90	施策6 相談体制の充実と情報の提供	地域包括支援センターの認知度	41.3%	50.0%
		子ども未来センターの認知度	21.0%	22.0%
99	施策7 地域生活における安全安心の確保	防災、急病など緊急時に備えるための地域活動(地域での災害時要援護者への支援、救急医療情報キット(安心キット)の取組など)が進んでいると「感じている人」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計	34.4%	36.0%
		地域(公共施設、歩道など)や住宅のバリアフリー化(段差を少なくするなど)が進んでいると「感じている人」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計	41.7%	43.0%

【2023年度(計画の最終年度)目標の算出根拠】

第3次地域福祉計画の目標については、一部達成した目標があるものの、状況を大きく改善するに至っていない状況です(16ページから引用)。

第4次地域福祉計画も、地域活動の担い手不足や社会的なつながりの希薄化など厳しい状況が見込まれることから、2023年度の最終目標は実績数値の悪化傾向に歯止めをかけるため、第3次計画での実績数値の維持を第一義と捉えました。

その上で、各施策ともプラス1～3%程度の上乗せを図ることで発展的な計画進行に取り組むこととしています。